

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 吉田 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

教科に関する調査(国語、数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

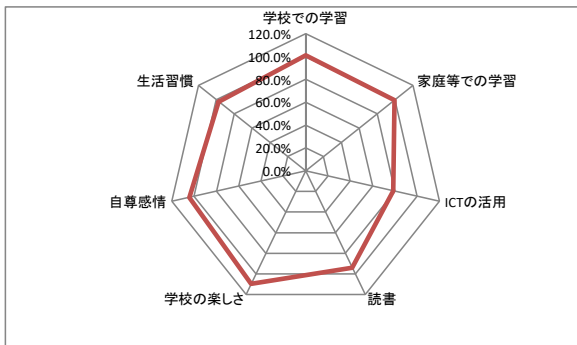
(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、理科)の結果

本年度の結果	国語		数学		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	6.6	47	9.8	47
全国	9.7	69	7.2	51	10.4	49

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	選択肢がある問題については全員が解答しており、問題に真摯に取り組もうとしていることがうかがえる。記述式の問題や短答式の問題では無回答率が上がっているが、全国に比べるとその数値は低く、問題に向き合う姿勢は良い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	行書の特徴を踏まえた書き方について説明した適切なものを選択する問題は正答率が全国よりも高かった。	
	努力が必要な問題	理論の展開に注意して聞く問題や表現の技法について理解する問題の正答率が、全国に比べて下回っている。	
数学	全体的な傾向や特徴など	記述式の問題にも取り組もうとする姿勢がみられる。特に、短答式の問題は記述式の問題よりも正答率が高く、全国に比べても正答率は上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	1, 2年の内容の数と式や関数に関する問題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	証明の必要性と意味や方法を理解して正しいものを選ぶ問題や、一次関数の関係を表した表を選ぶ問題など、選択式の正答率が低い。	
理科	全体的な傾向や特徴など	全ての問題において無回答率が全国平均に比べて下回っており、解答しようという意欲は見られる。また、選択式の解答より記述式の解答の方が正答率が高く、選択肢を読みとる力が必要だと思われる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「生命」を柱とする領域の問題は、正答率が全国平均同等である。中でも動物の体のつくりと働きについての問題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	化学分野の基礎は分かっているが、質量の変化等を問う応用問題になると正答率が下がる。また、物理分野も同様である。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「学校に行くのが楽しい」と回答した生徒が全国平均よりも大幅に上回っている。 ・自尊感情の項目で「先生はあなたのよいところを認めてくれているか」という質問に対し、肯定的な回答をした生徒が全国平均より大幅に上回っている。 ・読書に費やす時間は全国平均とほぼ同じであるが、「読書は好きか」という質問に対し、肯定的な回答をした生徒が少ない。 ・タブレットを活用して授業やドリルに取り組んでいるが、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つか」という質問に対し、肯定的な回答をした生徒が全国に比べ大幅に下回っている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・朝自習で基礎・基本を繰り返し学習し、朝自習テストをすることで定着させるようにしている。
- ・小学校算数の学習内容の定着度に課題が見られる。その対策として、AIDリルを用いて個に応じた取組ができるようにしている。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・マイトノート(1日1ページの学習課題)に取り組むことは習慣化されてきているが、内容の深まりに乏しく、成果が表れていない。学習内容を深める工夫を行うことで、学力向上に繋がると思われる。
- ・読書の習慣は全国比より下回っている。読書の楽しさを味わうことができるような方を、図書館担当を中心に推進していく。